

## つたえる気もちがへいわのしるし

石垣市立大浜小学校 二年

美崎 伊楨里

「みんなであそぼう。オー。」

わたしの学校では、うんどう会のしゅ目に「みんなであそぼう」があります。なまえのとおり、おとしよりから小さな子どもまで、会じようにいる人が手をとりあって、みんなであそびます。わたしは、「みんなであそぼう」が大すぎです。「とうりゃんせ」や「月ぬかいしゃ」のきよくにあわせてニコニコおどるからです。今年で六十四かいになります。

「かあちゃん、みんなであそぼうは、だれがかんがえたのかなあ。」

「今年せんそうがおわって、七十年になるんだけど、せんそうこの大はま小学校の校長先生が、うんどう会のプログラムに入れたと、いわれているよ。」

「すごいねえ。この校長先生にあつてみたいな。どんな気もちでつくったのか知りたいな。」

「その校長先生は、今はいないよ。けれどこの校長先生の気もちは、ずっとちいきの人や大はま小学校の子どもたちが、人から人へとつたわって今でも、のこっているんだよ。」

わたしのすんでいる大はま村は、せんそうごどんなせいかつをしていたのだろう。わたしは、しらないけれど、せんそうでたくさんの人が、くるしんだことはどうとくのじかんにおべんきょうしました。だから、今でも大はま小学校にのこっている「みんなであそぼう」は、すぐくだいじなことをみんなにつたえているとおもいます。

むかしの人のきもちや、おもいをずっとつたえてきた大はま村の人たち。その村にすんでいるわたしは、とてもしあわせです。ちいきの人からおしえてもらったことや、えがおをつぎは、わたしがたくさんの人に、つたえられるようにがんばります。

「つたえる気もちが、へいわのしるしだね。」